

第5次総合振興計画事務事業評価シート(様式1)

提出日 R5.6.23

担当 課名 政策推進課  
 グループ名 地方創生室グループ  
 記入者名

1 事業概要

(1)事業名	総合戦略推進事業費(若者未来会議)	(2)事業種別 (新規・継続)	継続	(3)事業性格 (政策・一般)	政策事業
(4)第5次総振での位置づけ	(5)予算・財源等の別				
①基本目標	人が輝くまち(参加と協働の推進)	①会計区分	一般会計		
②大項目	協働・共助	②財源区分	町単独		
③中項目	町民参加の充実	③予算科目	款 2	項 1	目 6
④施策	官民連携	④予算事業名	総合戦略推進事業費(若者未来会議)		
⑤施策コード	1.2.2.2	掲載ページ	23	ページ	
(6)実施根拠	(7)総合戦略				
①事務分類(自治・受託)	自治事務	①総合戦略 (該当事業名)	若者未来会議		
②根拠法令	まち・ひと・しごと創生法				
③事業期間	開始	令和2年	4月	から	終了
					未定 年 月 まで

2 事業の目的・対象及び内容

(1)目的(何のために行うか)	(3)手段(内容・どのような取り組みか)
①若者の知恵や柔軟な発想をまちづくりに反映すること。 ②若者が小川町をフィールドに、将来を担う人材として成長すること。 ③小川町が、若者が活躍できる町であることを若者に認知してもらい、実際に多様な活動が行われること。	各期の活動期間を2年間とし、小川町をより良くするアイデアを若者未来会議構成メンバー自身で考え、目的達成に向けた取組を立案・実施する。
(2)対象(誰に対して、何に対して行うか)	(4)成果イメージ(どのような状態になることを目指すか)
若者未来会議構成メンバーを含む、概ね10代後半から20代の若者	若者がまちづくりに積極的に参画することで、まちなかで若い世代が賑わう町。
対象数	-
単位	人

(5)事業を取り巻く環境(社会環境、町民ニーズ等)、団体、議会等からの要望など  
 人口減少の緩やかな抑制や将来にわたる地域活性化を目指す第2期総合戦略の策定にあたり、次代の担い手となる若者世代から多様な意見を伺うとともに、その知恵や柔軟な発想を可能な限り反映していきたいとの思いから、「小川町まち・ひと・しごと創生総合戦略若者未来会議」を設置した。

(6)SDGsへの貢献



3 事業のコスト(実績・予算・決算) (単位:千円)

項目	(1)事業(内容)名称					
	総合戦略推進事業費(若者未来会議)					
	決算・予算年度	R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度予算
(2)事業費内訳	報償費		157	55	86	86
	補助金		0	552	0	500
			0	0	0	0
			0	0	0	0
			0	0	0	0
	その他		0	0	0	0
	直接事業費合計	0	157	607	86	586
(3)財源内訳	国庫支出金		0	0	0	0
	県支出金		0	0	0	0
	地方債		0	0	0	0
	その他特定財源		0	0	0	0
	一般財源		157	607	86	586
	合計	0	157	607	86	586
(4)補助金名						
(5)人件費						
	投入職員数		0.3	0.4	0.3	0.4
	年間人件費	0	2,292	3,051	2,263	3,079
(6)総事業費	0	2,449	3,658	2,349	3,665	
	サービス量(人)		15	16	13	13
	サービス単価		163.2	228.6	180.7	281.9
	(単位)	千円/若者未来会議構成メンバー1人あたり				

4 指標の検証(活動指標・成果指標)		総合戦略推進事業費(若者未来会議)				
指標名		単位	R3年度決算	R4年度決算	R5年度予算積算	
(1)活動指標(実施した事業の量:回数、延長、面積等)						
指標名	若者未来会議開催回数	目標値	回	6	5	5
		実績値	回	27	9	
		達成率	%	450.0	180.0	
		目標値				
		実績値				
		達成率				
(2)成果指標(実施した結果として得られた成果の量と達成度:人数、世帯数、件数、団体数、コスト指標等)						
指標名	企画事業の立案	目標値	件	2	2	0
		実績値	件	2	1	
		達成率	%	100.0	50.0	
	企画事業の実施	目標値	人	2	0	1
		実績値	人	2	0	
		達成率	%	100	-	
(3)その他指標に現れない成果						
若者が「小川町の魅力」に触れる(認知する)機会を提供することで、交流人口・関係人口の増加を図ることができる。また、若者が持つ行動力、情報拡散力により、小川町の地域資源を広くPRすることに繋がる。						
5 事業評価						
(1)項目別評価						
評価項目		評価	評価理由	評価した理由を選択してください。		
必要性	事業の必要性	1 1 必要性は高い 2 どちらともいえない 3 必要性が低い	2	1 事業の実施が関係法令等で定められている 2 住民や団体など外部から要望・要請が多い事業である 3 その他( )		
妥当性	実施主体の妥当性	1 1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	3	1 事業の主体が関係法令等で定められている 2 民間では事業を行っておらず、行政が主体となるべき事業である 3 その他(次代の担い手となる若者の多様な意見を反映する事業である。)		
	手段の妥当性	1 1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	1	1 事業を行うのに民間活力(企業、NPO、ボランティアなど)を活用している 2 他に有効な代替手段が見当たらない 3 その他( )		
効率性	コスト効率性 人員の効率性	1 1 効率的である 2 どちらともいえない 3 効率性が低い	2	1 サービス単価は減少している 2 サービス単価を維持している 3 その他( )		
公平性	受益者の偏り	1 1 偏りはない 2 どちらともいえない 3 偏りがある	3	1 公平に分配されている 2 おおむね公平に分配されている 3 その他(若者の交流人口・関係人口増加に伴う地域活性化は、全世代の受益を生む。)		
有効性	成果の向上	1 1 成果が上がっている 2 どちらともいえない 3 成果が下がっている	3	1 成果指標は、目標値より実績値が上回っている 2 成果指標は、前年度より向上している 3 その他(一度の取組みでは成果を実感しづらいが、継続して取組むことで成果を生む。)		
進捗度	事業の進捗	1 1 順調に進んでいる 2 概ね順調である 3 あまり順調に進んでいない	1	1 年度内に予定した事業は完了した 2 年度内に予定した事業の8割以上は完了した 3 その他( )		
(2)総合評価(上記結果を踏まえて、問題点や課題を記載してください。)						
本事業は、若者自身で企画の立案・事業の実施を行うため、若者の多様なアイデアをまちづくりに反映することができる反面、そのプロセスでは、受験や就職活動、仕事等を抱える若者の負担となり得る。そのため、若者のアイデアを反映しつつ、負担感を軽減する仕組み作りをしていく必要がある。また、各期でメンバー及び取組みが異なるため、いかに継続性を維持していくのかも今後の課題である。						
6 事業の方向性の判断		1 拡充 2 現状維持 3 縮小・統廃合				
評価主体	(1)一次評価 (担当課長)	(2)二次評価 (政策推進課長)	(3)最終評価 (町長)			
評価	2					
説明	若者の活躍する場を提供することは、町の活性化において重要である。					